

【評価実施概要】

事業所番号	3070104371
法人名	株式会社 介護ステーション オアシス
事業所名	グループホーム オアシス
所在地	〒640-0115 和歌山市つつじが丘2丁目6-1 (電話) 073-455-1330

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関 あんしん
所在地	〒596-0808 大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年7月9日

【情報提供票より】 (平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費他25,000 円	
敷金	有 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (退去時全額返済)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1		要介護2			
要介護3	1	要介護4		3	
要介護5	5	要支援2			
年齢	平均 81 歳	最低 70 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかたクリニック 小林歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームオアシスは、南海電鉄加太線二里ヶ浜駅下車徒歩数分の新興住宅地つつじが丘の一角にある。建物の1階が認知症デイサービス、2階がグループホームとなっている。共有空間である居間や食堂は家庭的な雰囲気、季節感溢れる生け花や七夕飾り等が飾られている。法人代表は独自の介護観を持ち、利用者の立場に立ったサービスの提供を目指している。管理者は利用者の身体状況や認知症の程度にかかわらず、安心して生活できるように細やかな配慮を怠らず、職員も「支援する側」といった立場ではなく、利用者と共に支え合える関係作りを目指している。職員は外部研修に積極的に参加し、特に身体拘束ゼロを徹底し、毎月のミーティング時に身体拘束廃止に関する伝達研修を行っている。法人は訪問看護サービスも提供しており、法人代表、管理者共に看護師で、家族の希望があればターミナルケアを受け入れる体制が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価受審後、評価結果を職員間で話し合い改善に向けて取り組んでいる。理念を利用者や家族の目につく壁に掲示し、理解が得られるようにしている。1階エレベーター前に手作りの表札を掲げ、訪問者が入りやすい雰囲気を作っている。利用者にとって今日が何日か分かり易いカレンダーを掛け、季節感のある花を飾るなど課題の一つひとつを丁寧に検討し改善している。前回の外部評価で指摘があった入居者一人ひとりの記録や業務日誌等の書類の整備が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価表作成時は臨時のミーティングを持ち話し合っている。職員は評価の狙いや活用方法を理解しており、評価の結果を基にサービスの質の改善に取り組む意欲を持っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、定期的に開催するには至っていないが、地域の自治会長、包括支援センター職員や利用者家族が参加してグループホームの活動報告を行い、利用者家族からの要望を受けて改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議で出された家族からの「行事の時期の変更」について、グループホームとして検討し、家族の希望に沿える時期に行事を行うことが決まっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回の家族来訪時、意見を聞く機会を持っている。また、運営推進会議で利用者家族の意見を聞き取り改善に結び付けている。問題が生じたときや困ったとき、ターミナル時などは、家族に来訪頂き看護師や職員、ケアマネージャーと一緒に話し合い、家族の意見を聞く時間を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は、地域の自治会に加入しており、散歩時出会った人との挨拶などを心掛けている。市内のボランティアの協力も得られている。しかし、グループホームの周辺は新興住宅地の住宅が点在している地域で、高齢者が少なく老人会もできていない。グループホーム開催の行事に広範囲の地域から沢山の参加者が集まるが、グループホームの理解や、地域の人との日常的な交流を行うまでには繋がっていない。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰にでも分かるように具体的な内容を盛り込んだ介護理念を、職員や利用者・家族の目に付く場所に掲げている。介護理念にはグループホームの利用者が地域社会の一環として生活することを支えると謳っている。運営規程の運営方針にも地域との結びつきを重視すると明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人代表、管理者と職員は常に話し合う機会を持ち、グループホームの理念の実践に向けて具体的な方針を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームは自治会に加入しており、散歩時出会った人との挨拶を心掛けている。。知人の紹介等でボランティアの協力も得られているが、周辺は住宅が点在している新興住宅地で、高齢者は少なく老人会もできていない。グループホームが開催する行事に広範囲の地域から参加者(500人)が集まるが、普段の交流に繋がっていない。今後地域の理解を得るための工夫が望まれる。	○	運営推進会議には自治会長がメンバーとして参加しており、この4月からは近隣に幼稚園も開園し、今後の交流が期待される。また、グループホームが開催する夏祭り等の行事に参加する地域の方々とのコミュニケーションを図り、円滑かつ継続的な関係が築けるような工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。職員は評価の狙いや活用方法を理解している。今回の自己評価では臨時のミーティングを持ち話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の自治会長、包括支援センター職員や利用者家族が参加して開催し、事業所の活動報告を行い、利用者家族からの要望などを受け改善に向けて取り組んでいる。しかし、昨年10月に第1回を開催し、議事録を残しているが、その後継続的な開催を行っていない。	○	グループホームのある地域は、新興住宅地で老人会はなく、自治会の協力を得ることが難しい現状である。しかし、定期的に運営推進会議を開催し、民生委員や行政などに働きかけ、地域の理解を得ると共に、地域とのつながりを深め協力を得られる体制を作っていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者から研修や催しの情報提供がされている。行政から金銭面や介護面で困難な利用者に関する相談があり、グループホームとして対応に協力した結果、利用者の状態改善につながることが出来ている。今後、地域との交流などグループホームが抱えている問題点や現状を伝え、行政と共に課題の解決に向けて取り組んでいくことが期待される。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族に、利用料金の支払い時必ず月1回グループホームを訪問するように呼びかけている。家族の訪問時、利用者の写真を手渡すと共に、暮らしぶりや金銭管理についての報告を行っている。今後ホーム便りの発行を予定している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、家族の来訪時、意見を聞く機会を持っている。運営推進会議で利用者家族の意見を聞き取り改善に結び付けている。問題が生じたときや困ったとき、ターミナル時などは、家族に来訪頂き看護師や職員、ケアマネージャーと一緒に話し合い、家族の意見を聞く時間を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立以来3年余りになるが職員の異動は少なく、ほとんどの職員が常勤で異動や離職は最小限に抑えられている。また、離職があった場合には、新任の職員が利用者と一緒に馴染めるように、他の職員が配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会や県介護普及センターの研修など外部の研修には、職員の技量に応じて積極的に受けることができるように配慮している。職員は研修報告を提出し、ミーティング時に伝達講習を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に加盟し、連絡会や研修会には積極的に参加している。管理者や職員は同業者との交流や連携を持つことで、日ごろの仕事の悩みの解消や事業所のサービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム併設のデイサービスやナイトケアの利用を通して、サービスの場に馴染んで安心して利用できるようにしている。また、サービス開始前には職員が利用者を訪問し馴染みの関係が築けるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の前に詩吟を披露して頂く、催し物の時に歌を唄う、体操の得意な利用者が中心になって先生役で指導していただく雰囲気を作るなど、利用者一人ひとりの得意分野を役割としてお願いするなど支えあう関係作りを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の重度化が進みターミナル以前の問題として、利用者の意欲の低下が問題となっている。一人ひとりのスタッフのきめ細かい気付きを大切に、言葉だけではなく、表情や様子から利用者の気持を汲み取り、利用者の思いに添った支援ができるように、情報の共有を図っている。また、職員が利用者一人ひとりに係わることで、それぞれの楽しみを見つけていけるように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケアマネージャー・介護主任・ケアワーカー・看護師が参加してケアカンファレンスを開いている。変化の見られる場合や問題がある時は家族に呼びかけ、会議への参加を促している。車椅子での毎日の散歩といった本人の希望を入れるなど個別性の有る計画を作成し、利用者、家族に説明し同意後署名捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを行い、実施状況を確認すると共に、本人・家族の満足度、ニーズ充足度などを評価し、記録している。介護計画の見直しは3～4ヶ月毎に行っている。状態に変化が見られた時には、期間にとらわれず見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて通院支援を行っている。また法人内の訪問看護ステーションの活用や、法人代表やケアマネージャーが看護師であるといった事業所の特徴を活かし早期退院の支援や医療処置を受けながらの生活の継続が可能である。2ヶ月に1回家族と共に外出し外食する支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診を受け入れているが、本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している利用者もいる。重度の認知症の利用者にはきめ細かい観察と対応で支援しているが、必要であれば地域の専門医(精神科医)の協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にターミナルに関する説明を行っている。協力医療機関との連携が取れており、法人代表や管理者が看護師であり、法人内の訪問看護サービスの利用も含め家族の希望に応じて、ターミナルに対応している。終末期には、家族、看護師、ケアマネージャー、職員が話し合う機会を持ち意思確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライドに配慮した介助を心がけ、入浴時には個別対応している。排泄介助や着替えに際しても、必ずトイレや居室のドアを閉めるように徹底している。個人情報保護規定があり、個人情報の取り扱いに関して職員に周知している。事務所内の個人情報が記載された書類は第三者の目に触れない場所に保管することが望まれる。	○	個人情報が記載された書類は外部の人の目に触れないように扉のある棚等に保管することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの理念として、ゆっくり一緒に楽しく、利用者の希望に添うことを目標に支援している。特技としている人の詩吟をみんなで聞いたり、カラオケが好きな人は1階のデイサービスで歌ったり、散歩の好きな人には毎日車椅子で出かけるなど重度化した利用者に対する支援方法も工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が決めているが、季節の野菜などの食材は利用者の家族等から寄付などの支援があり、旬の野菜などが提供できている。おやつに利用者と一緒にたこ焼きを作って共に楽しむこともある。2ヶ月に1回は外出に出かけ、好きなものを選ぶように配慮している。近くの喫茶店でサンドイッチを取ることも有る。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後1時からとなっており、希望があればいつでも入浴できる。重度化している利用者も、二人で抱えてもしくは移動用具を使用して湯船に浸かってもらえるように配慮している。失禁等で必要と思われる時にはシャワーを使用している。入浴を嫌がる利用者には、時間を置くなど自然な形で入浴を楽しめるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や生活歴を活かし、詩吟・カラオケ・折り紙・体操などで活躍する場を演出している。趣味も、職員が主体ではなく利用者が主体となって楽しめる取り組みで支援できるように工夫している。居間に足踏み器を設置し、利用者が体力の維持を励みとして活用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な気分転換が出来るように、車椅子利用者も一緒に毎日のように近隣を散歩している。近くの公園に車で出かけることもある。お花見やハーブ園の見学、外出の機会を持つなど外気に触れ、気晴らしが出来るように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを実践しており、玄関の扉は常に開放している。玄関の扉にはチャイムセンサーを設置しているが、利用者の重度化に伴い、無断で外出する方もいない。身体拘束廃止推進員養成研修を受講した職員が中心になって職員間で定期的に身体拘束に関する勉強会を行っており、身体拘束廃止を徹底し、勉強会の記録を残している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防訓練を行っており、防災連絡網を作成し掲示している。消火器も分かり易い場所に設置している。消防訓練の際に重度利用者の避難方法等の講習や搬送方法の実践を行っている。災害を想定した実際の避難訓練が出来ていない。また地域の住民の協力を得られるまでには至っていない。	○	グループホームにおける災害を想定した実践的な避難訓練の実施が求められる。また、災害時に地域の住民の協力が得られるような働きかけが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー摂取量は1100~1200カロリーで、食事摂取量を毎回記録している。食事時、おやつ、入浴後に水を補給している。水分摂取量の把握が必要な利用者の記録を残している。とろみをつけて提供している利用者もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると利用者の家族から届けられた百合の花が壺に生けられ、利用者のグループホームでの沢山の思い出の写真集が置かれている。廊下や居間には、今年の干支である職員手作りの可愛い鼠の壁飾り、夏らしい涼しげな金魚の飾り付け、利用者の願いが書かれた七夕飾りなどが飾られ、落ち着いた雰囲気である。また、光溢れる明るい食堂兼居間には、金魚鉢にめだかが飼われており、たくさんの稚魚が生まれて利用者の目を楽しませている。浴室は明るくりフト式の機器が備え付けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓され、使用されていないものは天袋に収納できる。居室には写真立て、筆筒、家具、歌手の写真集、こけしなど利用者が身近に置いて大切にしていた馴染みの物品が持ち込まれている。高さが調節できるベッドを配置し、利用者の状況に合わせた環境整備を行っている。		

※ は、重点項目。